武、雄馳入、夜穴壘出、鏖兵、烏介驚引去、雄追北至殺胡山、烏介被創走、雄遇公主、奉主還、降特勤以下衆數萬、盡收輜帑及所賜詔書

と記せり、此等の記事に據れば、去年八月以來、陰山の南、黄河の北に位せる振武城より、雲州（卽大同）の間に轉戰したりし烏介可汗は、此の時其の牙營を振武城と極めて近き處に置きたるものなること疑無し、獨り舊唐書廻紇傳には

會昌三年、廻鶻尙書僕固繹到幽州、約以太和公主歸幽州、烏介去幽州界八十里下營、其親信骨肉及摩尼志淨等四人、已先入振武軍、是夜河東劉沔、率兵奄至烏介營、烏介驚走東北約四百里外、依和解室韋下營、不及將太和公主同走、豐州刺史石雄兵、遇太和公主帳、因迎歸國

と記せり、之に據れば會昌三年烏介可汗は僕固繹を幽州の張仲武の許に派し、太和公主を擁して唐に歸降せんとし、之が爲に幽州界を去ること僅に八十里の地點に來りて營を置きしものなるが如く、從て劉沔が襲ひし烏介の營も、勿論之を指したるものと認めざる可らず、而して幽州界といふものが何れの地を指せるものなるかは固より明かならざれども、之を何處と見るも、之より八十里と曰ふ烏介可汗の營が、他の諸書に記さるゝ塞外振武軍に接近せる地點と一致すべきものとは考ふ可らず、此の頃の回鶻に關する史實の考證に就きて、特に精密を極めたる通鑑は、不思議にも此の場合に於ては舊書を其の儘に註記して、一言を附論する所無けれども、茲に引きたる舊唐書廻紇傳の一節は、他の諸書の記載と一致せざるもの甚だ多く、回鶻の尙書僕固繹が幽州に至りて、太和公主を擁して歸降すべきを約したることの如きも全く諸書に見えず、又劉沔が兵を率ゐて烏介の營を襲ひしと記せるものも、實